

# リンパ嗜好性物質パテントブルー注射による乳癌の前哨リンパ節の同定

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/15607">http://hdl.handle.net/2297/15607</a>

学位授与番号	医博甲第1436号
学位授与年月日	平成12年7月31日
氏名	坂東悦郎
学位論文題目	リンパ嗜好性物質パテントブルー注射による乳癌の前哨リンパ節の同定

論文審査委員	主査	教授	三輪晃一
	副査	教授	磨伊正義
		教授	渡邊剛

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

乳癌の腋窩リンパ節郭清は、根治手術としてまたステージ決定の診断法として行われているが、しばしば患側上肢の難治性リンパ浮腫の合併症を伴う。乳癌手術例で腋窩リンパ節に転移を認めない頻度は60-70%で、これら症例を峻別できれば、腋窩郭清を省略でき、乳癌患者の術後の quality of life (QOL) は向上する。転移の有無の識別には、癌が最初に転移するリンパ節すなわち前哨リンパ節(sentinel lymph node, SLN) を同定し、これを術中に迅速組織診断するのが最も確実な方法である。そこで、91例の乳癌周囲にリンパ嗜好性色素パテントブルーを注射し、青色に着色するリンパ節の SLN としての精度を検討した。方法は、全身麻酔下に、乳癌の腫瘍周囲4ヶ所に1%パテントブルーを1mlずつ、合計4mlを注入し、開創後脂肪組織内に青染するリンパ管を下流に追い、青染する最初のリンパ節を同定した。

得られた成績は以下のように要約される。

- 1) 青染リンパ節の同定率は、90% (91例中82例) であった。
- 2) SLN 生検の正診率は、永久標本では95%で、5%(4例) の偽陰性症例が認められた。
- 3) SLN のみに転移が認められた症例が15例存在した。
- 4) 門を含む通常の1切片の転移検索では SLN 診断の正診率は89%であったが、3切片では95%となり精度が向上した。
- 5) 凍結標本による術中迅速診断による SLN 生検の正診率は88%で、永久標本に比して成績が劣った。
- 6) 腋窩領域の SLN の部位は水準Ⅰ、Ⅱであり、水準Ⅲには存在しなかった。
- 7) 胸骨傍リンパ節領域にリンパ流が確認されたのは45例中6例 (13%) であったが、青染リンパ節は同定できなかった。

これらの成績より、リンパ嗜好性色素パテントブルーを用いた色素法による SLN の同定・生検は、腋窩郭清の適応決定に有用であると考えられた。

本研究は、乳癌の前哨リンパ節を術中に同定することにより、不要なリンパ節郭清を省略できる可能性を示唆する価値ある研究と評価された。